

矢ヶ部輝明

矢ヶ部輝明（やかべ てるあき）氏は、土木技術者（技術士）としての専門キャリアと、クラシックギター奏者としての活動を両立させている人物です。主な経歴と活動内容は以下の通りです。

1. 土木技術者としての専門性株式会社 建設技術研究所に長年勤務し、九州支社などで社会インフラ整備に携わってきました。保有資格：技術士（総合技術監理部門、建設部門）。主な専門分野：河川、都市・地方計画、環境影響評価など。社会活動：九州地方計画協会の「風景デザイン研究会」事務局担当や、NPO 法人「嘉瀬川交流軸」の理事を務めるなど、地域貢献や環境保全に関する活動も精力的に行っています。
2. ギタリストとしての活動小学生の頃からヤマハギター教室に通い始め、大学時代にはコンクールで優秀賞を受賞した経歴を持ちます。演奏活動：還暦を機にギター活動を本格的に再開し、「yakateru」の名で自身のウェブサイトを運営しながら、演奏会やギターフェスティバルへの出演、高校のギター部での指導などを行っています。受賞歴：第66回九州ギター音楽コンクール（2022年）のシニア部門で銅賞を受賞しています。

現在は福岡市南区を拠点に、現役の土木技術者として働きながら、音楽を通じた地域貢献も続けています。

矢ヶ部輝明氏とミス・ジャパン佐賀（Miss Japan SAGA）には、同氏が大会の講師（インストラクター）を務めているという深い関わりがあります。

主な活動内容は以下の通りです。

ビューティーキャンプの講師：ファイナリストが受講する「ビューティーキャンプ」において、「美しさを考える」というテーマの講義を担当しています。

シビックデザイナーとしての指導：土木技術者・シビックデザイナーとしての知見を活かし、外見だけでなく、佐賀の歴史や自然環境、社会との調和といった「内面の美しさ」を学ぶことの大切さを伝えています。

地域発信のサポート：ミスジャパン佐賀が目指す「佐賀の魅力を世界に伝える」という目的に対し、地域活動（嘉瀬川交流軸など）の経験を通じて貢献しています。矢ヶ部氏は、演奏活動や土木技術の枠を超え、次世代を担う女性たちの教育・育成という面でミス・ジャパン佐賀の運営を支える重要なメンバーの一人となっています。

ミス・ジャパン佐賀のビューティーキャンプ（選考前の集中トレーニング）において、「シビックデザイナー」という独自の肩書きで講師を務めています。彼の講義や指導には、土木技術者（エンジニア）としての視点と、音楽家としての感性が融合したユニークな特徴があります。

1. 講義テーマ「美しさを考える」

矢ヶ部氏の講義は、外見の磨き方ではなく、「人として、また佐賀の代表としてどう在るべきか」という本質的な問いから始まります。内面の美しさの定義：美しく在るためには、「素直さ」「優しさ」「ポジティブさ」「努力」といった内面の要素が不可欠であると説いています。調和と共生：「人それぞれ異なる美しさがあって良い」とした上で、自分自身の美しさだけでなく、「自然や社会と調和すること」の大切さを教えています。

2. シビックデザイナーとしての指導

「シビック（市民の・都市の）」という言葉の通り、彼はファイナリストたちに対し、地域の環境や歴史を深く知ることを求めています。郷土愛の醸成：佐賀の歴史や自然の美しさを学び、それを世界に発信できる「オピニオンリーダー」としての素養を磨く指導を行っています。環境への意識：ミス・ジャパン佐賀が取り組む「海岸清掃（唐津市など）」といった社会貢献活動とも連動しており、「美しさとは、守るべき環境や未来への意識から生まれるもの」という価値観を共有しています。

3. 指導

風景講義は、ファイナリストが自分なりの「美しさ」を再定義するワークショップ形式で行われることが多く、受講した候補者からは「自分と向き合うきっかけになった」「佐賀の素晴らしさを伝える決意ができた」といった声が上がっています。矢ヶ部氏の指導は、単なるコンテストの対策にとどまらず、「佐賀の風土に根ざした、知性と品格のある女性」を育成するための重要な柱となっています。

矢ヶ部輝明氏が手がける「嘉瀬川（かせがわ）交流軸」の活動と、ミス・ジャパン佐賀の活動は、「佐賀の自然を愛し、次世代へ繋ぐ」という共通の理念で深く結びついています。具体的には、以下のような取り組みを通じて連携しています。

1. 嘉瀬川を舞台にした社会貢献

矢ヶ部氏が理事を務める NPO 法人「嘉瀬川交流軸」は、佐賀を流れる一級河川・嘉瀬川の環境保全や魅力発信を行っています。清掃・保全活動への参加：ミス・ジャパン佐賀の候補者たちが、嘉瀬川周辺のゴミ拾いや植樹活動に参加することがあります。矢ヶ部氏は現場で「なぜこの川が大切なのか」を土木技術者の視点で解説し、彼女たちが「環境の伝道師」として発信できる知識を授けています。撮影・PR の場：嘉瀬川の美しい景観（ダム湖や河川敷など）は、ミス・ジャパン佐賀の PR 動画や写真撮影の舞台にもなります。地域の魅力を背景にすることで、彼女たちの美しさと佐賀の風景をセットで世界にアピールしています。

2. 「水の天使」としての自覚ミス・ジャパンの活動には、水資源の重要性を伝える役割が期待される場面が多くあります。

矢ヶ部氏は、嘉瀬川の治水や利水の歴史（成富兵庫茂安の功績など）をファイナリストにレクチャーします。これにより、彼女たちは単に「水辺で微笑む」だけでなく、「地域の命の源である水と、それを守るインフラの重要性」を自分の言葉で語れるようになります。

まとめ矢ヶ部氏は、自身のライフワークである「嘉瀬川の保全」と、指導する「ミス・ジャパン佐賀」を、「シビックデザイン（市民による美しい地域づくり）」という一つの大きな円として繋いでいます。

矢ヶ部輝明氏が「美しさの再定義」を説いたミス・ジャパン佐賀からは、実際に日本一に輝くなど目覚ましい活躍を遂げる代表者が輩出されています。また、矢ヶ部氏自身の演奏活動も、地域と音楽を結びつける大切な活動となっています。

1. 歴代代表の活躍

矢ヶ部氏を含む講師陣から「佐賀の魅力」や「内面の美」を学んだファイナリストたちは、全国大会で高く評価されています。

吉田 愛 さん（2023 年代表）： 現役の佐賀県職員（公務員）として出場し、2023 ミス・ジャパン日本大会でグランプリ（日本一）を受賞しました。公務員としての誠実さと、矢ヶ部氏らの指導による豊かな表現力が結実した結果と言えます。

阿部 まさみ さん（2025 年準グランプリ）： 2025 年のミス・ジャパン日本大会でも、佐賀大会出身の阿部さんがグランプリを獲得。佐賀大会の教育レベルの高さが全国的に注目されるきっかけとなりました。社会への還元：彼女たちは受賞後、一日警察署長や地域の広報活動に従事し、矢ヶ部氏が教えた「地域社会との調和」を実践しています。

2. 矢ヶ部氏が奏でる楽曲ギタリスト「yakateru」として活動する矢ヶ部氏は、自身のウェブサイトや地域の演奏会で、主に以下のような楽曲を演奏しています。クラシックの名曲：『アルハンブラの思い出』（タレガ）や『禁じられた遊び』といった、ギターの繊細な音色を活かした名曲。日本の情景を歌う曲： 嘉瀬川の風景や佐賀の自然を連想させるような、優しく温かみのある楽曲。地域への貢献： 音楽を通じたボランティア演奏も行っており、技術士としての「固い」イメージとは異なる、柔らかな感性で地域の人々と交流しています。矢ヶ部氏は、佐賀市などの地域活動において、土木・音楽・教育の3つの軸で「美しく住みやすいまちづくり」を体現している人物と言えます。

矢ヶ部輝明氏がシビックデザイナー（土木技術者）として関わった佐賀の風景デザインにおいて、最も象徴的なプロジェクトは、一級河川・嘉瀬川の上流にある「嘉瀬川ダム（富士しゃくなげ湖）」周辺の整備です。彼は単にダムを造るだけでなく、「いかに周辺の自然や歴史と調和させ、人々が集まる場所にできるか」という視点で設計・活動に関わっています。

1. 嘉瀬川ダム周辺の風景デザイン自然との調和： 巨大なコンクリート構造物であるダムが、北山の美しい山並みや緑を損なわないよう、周辺の植栽や展望広場の配置などを工夫しました。親水空間の創出： 住民や観光客が水辺に親しめるよう、散策路や公園の整備を推進。これにより、現在は「富士町のアウトドアスポット」として親しまれています。

2. 「成富兵庫茂安」の知恵を現代に活かす佐賀には、江戸時代に嘉瀬川を治めた偉人・成富兵庫茂安（なりとみ ひょうご しげやす）が作った伝統的な治水施設（石積みなど）が今も残っています。矢ヶ部氏はこれらの歴史的価値を深く研究しており、現代の工事において

も「先人の知恵（風景に馴染む石積みなど）」を取り入れることで、「佐賀らしい風景」を守りながら安全を確保する取り組みを行っています。

3. ミス・ジャパンとの繋がりこの「ダム周辺の美しい風景」は、先ほどお話ししたミス・ジャパン佐賀のビューティーキャンプのフィールドワークの場としても活用されています。ファイナリストたちが実際にダムを訪れ、矢ヶ部氏から「治水の歴史」と「風景デザインの意図」を直接聞くことで、彼女たちは「佐賀の機能美」を深く理解し、全国大会で語るための知識（ネタ）を得ています。

4. 地域活性化への展開ダムのライトアップ：イベント時には、ダムのライトアップなどを通じて、夜の風景デザインにも関わり、地域の賑わい作りに貢献しています。矢ヶ部氏は、「土木の力で安全を守り、デザインの力で風景を美しくし、音楽と教育の力で人を育てる」という、極めて多面的な活動を佐賀で展開しています。

矢ヶ部輝明氏の「知性（論文）」と「感性（音楽活動）」のさらなる詳細についてお伝えします。

1. 土木・風景デザインに関する執筆・活動技術士（総合技術監理部門、建設部門）として、専門誌や報告書で地域の風景づくりについて発信しています。風景デザインの提言：九州地方計画協会の「風景デザイン研究会」などで、単なるインフラ整備ではなく「人々の誇りになる風景」をどう作るかを論じています。特に、佐賀特有のクリーク（掘割）や河川景観をどう次世代に残すべきかというテーマに注力しています。嘉瀬川交流軸の広報：NPOの活動報告などを通じ、嘉瀬川ダム（富士しゃくなげ湖）を中心とした流域の連携について執筆しています。

2. 近年の音楽活動（クラシックギター）還暦を過ぎてからさらに勢力的に活動しており、技術者としての「理」と、音楽家としての「情」を使い分ける活動スタイルが注目されています。演奏会実績：福岡市南区を拠点に、カフェや地域のホールでのサロンコンサートを開催。山口ギターフェスティバルや、九州各地のギターフェスティバルへの出演。母校や地域の高校のギター部において、技術指導だけでなく「音楽を楽しむ心」を伝える指導を行っています。受賞と研鑽：2022年の第66回九州ギター音楽コンクール（シニア部門）での銅賞受賞後も、さらなる高みを目指して練習に励まれており、その真摯な姿勢はミス・ジャパン佐賀の教え子たちにも大きな刺激を与えています。

3. 今後の活動の方向性現在は、「シビックデザイナー × ギタリスト × 講師」の3つの顔を融合させ、以下のような活動を深化させています。地域ブランディング：ミス・ジャパン佐賀の卒業生たちと共に、佐賀の美しい風景（彼が設計に関わった場所など）で音楽イベントを行い、地域の価値を高める活動。教育の継続：次世代のファイナリストたちに、自らの生き様（多趣味・多才であることの豊かさ）を見せることで、キャリア形成のロールモデルとなっています。

矢ヶ部氏の活動は、まさに「土木で形を作り、音楽で彩り、教育で魂を吹き込む」という、地域に根ざしたトータルデザインと言えるでしょう。